

吉史通

全

吉史通

				二〇二	和書門
			五	六	
九	九	三	八		
冊	架	函	號	類	

庫	文	閣	內	
一				和
四				書
函				
一				
九	五			
冊	冊			

內閣文庫	
番號	和 20268
冊數	5 (4)
函號	141 207

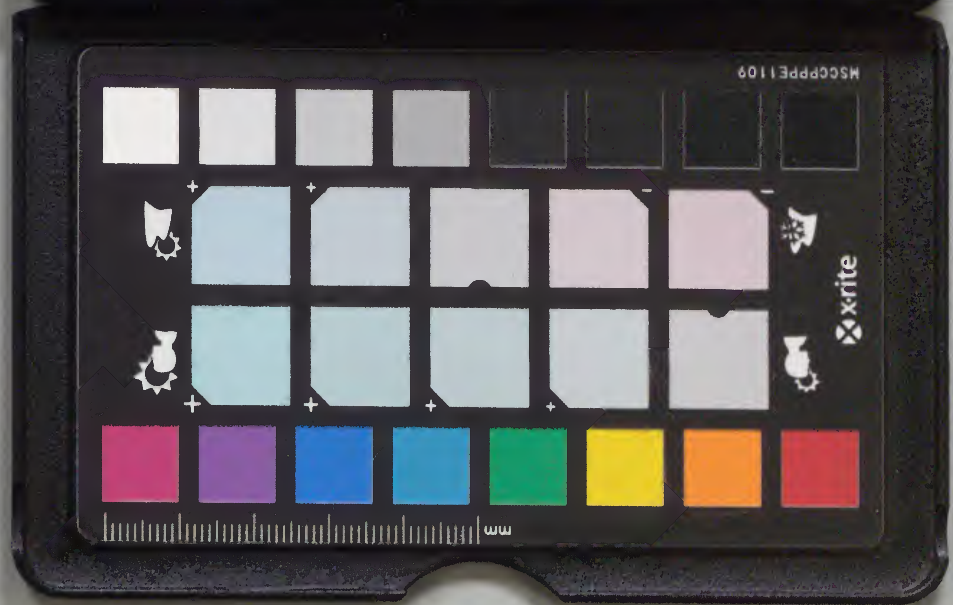


Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

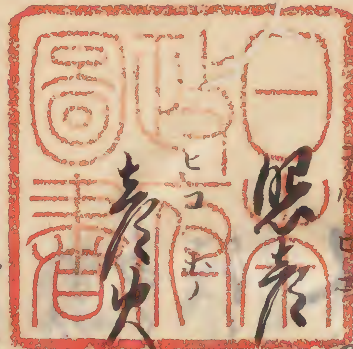


© Kodak, 2007 TM: Kodak



古史通卷之二

浅草文庫



天照大神天照太孫尊也。高曾孫尊神の

女携幡千々姫命天照太孫尊也。天照太孫尊神の

天照太孫尊神天照太孫尊神天照太孫尊神

瓊々杵尊一杵の皇孫也。天照太孫尊神の

携幡千々姫天照太孫尊神の妹也。天照太孫尊神の

らるる豊後國風土記に云く天照太孫尊神の妹也。天照太孫尊神の

栲樹多く生る常小栲皮を取りとく本綿はらふふりりと
抽寫ノ御とよとみ(ま)と湯名妙小(内)布、湯とまきり
又湯名妙小本綿ハ淡く由布とよとまを成りまは白
條多きとのなりとよ(中)り(ま)ハ栲樹又ハ本綿とよ
上右の湯名樹皮とのまき白條成(織)る布と織る白本綿
とよとの即世也又英流小栲は淡む車機(ハジ)のまき
お(ま)の敷也機柘(ハ)多たとよと女功の車織成
本とす海曲(ま)り於て名とま(ま)り(ま)とみ(ま)り

又ハ小栲豊秋津師昭栲栲千(昭)命とよと
中(一) 嘉事 栲栲豊秋津師比賣(由)とよと
カシ 飛 栲栲千(昭)命とよと
ヨロツハツトヨアキツ ヒノ ヲツハツ ヒノ ヲツハツ ヒノ

天美栲栲千栲昭とよと 日本記 此淡ニカ
美賣とよと 沖女とよと まきり(ま)り(ま)とみ(ま)り

天照國思彦天火明櫛玉鏡連日命又
天火明命とよと 思國思彦天火明 命とよと
鏡連日命とよと 櫛玉鏡連日命 又
火明命とよと 神鏡連日命 又
天鏡石

天鏡石天津彦彦火瓊杵命又ハ日子彥

述く鹿^{ニニキ}命^ノも^{ホニニキ}天^ノ火^ノ瓊^ノ杵^ノと^{アノ}も^ノ天^ノの

杵^{キホホサキセノ}火^{ホホサキセノ}火^{ホホサキセノ}瓊^{ホホサキセノ}杵^{ホホサキセノ}と^{アノキセノ}も^ノ天^ノの^{ホホサキセノ}杵^{ホホサキセノ}命^{ホホサキセノ}と^{ホホサキセノ}も^{ホホサキセノ}中^{ホホサキセノ}す

日本^{ニニキ}皇^ノ孫^ノと^{ホホサキセノ}は^{ホホサキセノ}高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ

皇^ノ孫^ノと^{ホホサキセノ}稱^ノす^ノと^{ホホサキセノ}高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ

高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ

一^ノ書^ノに^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ

命^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ

皇^ノ孫^ノと^{ホホサキセノ}稱^ノす^ノと^{ホホサキセノ}高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ

高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ

一^ノ書^ノに^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ

命^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ

皇^ノ孫^ノと^{ホホサキセノ}稱^ノす^ノと^{ホホサキセノ}高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ

高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ

一^ノ書^ノに^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ

命^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ

皇^ノ孫^ノと^{ホホサキセノ}稱^ノす^ノと^{ホホサキセノ}高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ

高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ高^ノ皇^ノ事^ノ記^ノ

暴流小右ノ事浩圃ノ海客ハハケテ決意ハシケル

見たりヨリ此ノ事ヲ傳ルルハ皇祖ノ御代ニシテ一人ハ

竹岩ノ名ヲ天ノ身ニシテヤヒシク忠徳ノ御代ノ一名ニシテ

有リシハ丹國ノ御代ニシテ皇祖ノ御代ニシテ

ノ不籠ノ事ハ神代ノ事ナリト云フ也ト云フ者ハ

魚ノ事ハ皇祖ノ御代ニシテ皇祖ノ御代ニシテ

ハ皇祖ノ御代ニシテ皇祖ノ御代ニシテ

今ノ事ハ皇祖ノ御代ニシテ皇祖ノ御代ニシテ

情速日天ノ事ハ皇祖ノ御代ニシテ皇祖ノ御代ニシテ

高ノ事ハ皇祖ノ御代ニシテ皇祖ノ御代ニシテ

云ノ事ハ皇祖ノ御代ニシテ皇祖ノ御代ニシテ

固ノ事ハ皇祖ノ御代ニシテ皇祖ノ御代ニシテ

天ノ事ハ皇祖ノ御代ニシテ皇祖ノ御代ニシテ

天ノ事ハ皇祖ノ御代ニシテ皇祖ノ御代ニシテ

天ノ事ハ皇祖ノ御代ニシテ皇祖ノ御代ニシテ

ヨロツバシヒコノコソシヨリヒナ

トヨ アミ ハラオカウソリニ

カウ ハヤヒノアミノナシホ ミノ

コトムケ

リニノサニ

アミノカ コユミ アミノ

アミノカ

カウツロニ

ニヤ ア 海ツ

コトヨリ

ツト

アミノホ

アミノツカ

ナナシ

ナナシ

て其由と問ふればフツ神天雅彦のいかに射を

はぬフツ絶殊之武沙ぬ神ホヲとコト其國成

事定まりヲとコト及ひ大武之神其子事代

之神並カ其國成りカとコト二相之神ホカ満石順

國神と神法と天ホカ昇りてカ渡命ハとコト是れ日本紀ハ

一節とす其文長きりぬ小世ハ
二節とす其文長きりぬ小世ハ

大國之神其子事代之神カ並カ其國成りカとコト

天孫のいかに神カとコト事代高天原古事紀

日也其子事代之神カ並カ其國成りカとコト瓜者

異國わりて其文亦長カ其大要成カ據りカとコト

少小海と天照大神カ命とカ以てカ豊年カ尔カ

少秋長と秋長カ水穂國は秋沙子カ其君

少其地也カとカ海カとカ碓カ比カ天カ造カとカ其

少其子天照穗年カ其天カとカ海カ為カ子カ多カ志カとカ

豊葦原の水穂國は江多水夜夜國也有神利と

言ひて還よりて陸をまきし海状茂陳(あり)

豊葦原の神は小楯をまきしを祀饒豊高の國也饒比美

地小葦原草多くて名高の地は小なりて尚小なり

是より秋長秋長とは神記に子言とす古人

極多の教と名高の地は小なりて尚小なり

日本元ハ瑞穂國と名高の地は小なりて尚小なり

瑞穂國ハ瑞穂國と名高の地は小なりて尚小なり

瑞穂國ハ瑞穂國と名高の地は小なりて尚小なり

瑞穂國ハ瑞穂國と名高の地は小なりて尚小なり

瑞穂國ハ瑞穂國と名高の地は小なりて尚小なり

瑞穂國ハ瑞穂國と名高の地は小なりて尚小なり

瑞穂國ハ瑞穂國と名高の地は小なりて尚小なり

瑞穂國ハ瑞穂國と名高の地は小なりて尚小なり

瑞穂國ハ瑞穂國と名高の地は小なりて尚小なり

瑞穂國ハ瑞穂國と名高の地は小なりて尚小なり

瑞穂國ハ瑞穂國と名高の地は小なりて尚小なり

コトヨリ

四と五海一の國多し都も少く其國一は

チハヤフルアラ フルリニツカミ ソチオハ

道速振荒振四神亦多し何らむソラ色の

コトムケ

神として五飯一の事官ひのふと皇孫

及ひ八百神降りて天ノ徳口命はつり

海一とヤ次 天ノ安河ハ家小足もり及速振荒振

神ハ四本元祖ハ殘織漁暴積悪

神の字を振ひいらもり高流ハ及速振と荒振神

とソノ事一の河也ともみハカリたハ其神の

漁暴積の事と神一と古乃信借多し

之故とハ後ノ體タはまよとソノ天ノ徳口ノ命

家子足より天ノ徳口命の事也と又河見

ともヤも也これハ高皇產靈神の天照太神の命

子クハハハ百神とて華京國の事神と

沈隠とてむハ神と撰りハカリハ神と

天徳口命は まよつら 天徳口命は

心ノ為ナリ也

波四小海一遣これ一子之年小なるまで

後命は 高事元古の元子 天徳口命は

カリコトニウ 此ハ天徳口命は

まよ後命は 四本元ハハハ 後命は

の之徳大人ハ名ハ神ハ人ハと信つり

これハ其父ハ信じて信ハ神と信つり

此ハ其父ハ信じて信ハ神と信つり

天徳比命と國神みまにけりし事アツヤハリキセ 小天の命を成押ツクシ
 別と天翔アサカケり玉翔タマカケりて天カトと見早ミソバりて逆奉サカリコトヤリ
 て己命の子天出鳥命小布粒思志命を副ツカサて天池ツクシ
 媚臨メリンりて荒布命神赤と振フキム奉も國作りて天神ツクシ神ツクシと
 媚臨メリンりて大い信のまの現ウツヒコトる事也コト一りたコトとみへも
 さへ天徳比命は命波命をさふハ行コトる事也コト一りたコトとみへも
 奉コト不及コトとみへも一り天雅彦命は信コトりしれコト一りたコトとみへも
 一國遠ツクシり大已貴神奉コト一りたコトとみへも一りたコトとみへも
 命河コトりて其命記とまコト一りたコトとみへも一りたコトとみへも
 日也死コト小みコト一りたコトとみへも一りたコトとみへも
 信コト也コト後命コトも一りたコトとみへも一りたコトとみへも
 一りたコトとみへも一りたコトとみへも一りたコトとみへも
 復命コトも一りたコトとみへも一りたコトとみへも一りたコトとみへも

使モロカンまシテ之シ神ヲを諸神ノ小ミ子ノ四ツのミ一ツ不思シ兼ツ神ヲ成シ

アミツカリニサニ 天ノ津ノ國ノ神ノ子ノ天ノ雅ノ彦ノ命ノを信じテ

アミツカヒコ 天ノ雅ノ彦ノ命ノを信じテ

アミノ 天ノノカカラエミアミノハハハヤチ 天ノノカカラエミアミノハハハヤチ

ハスノニシテルヒナ 天ノノカカラエミアミノハハハヤチ 天ノノカカラエミ

天ノノカカラエミアミノハハハヤチ 天ノノカカラエミ

天ノノカカラエミアミノハハハヤチ 天ノノカカラエミ

天津國
 神は

又ソラも此神をくくてう天雅彦のシム

るまればは成河一くも事成河のひに成神

及び思成神言キシナナナなりて雅名鳴女はう成

と中も其雅彦階りて天雅彦の門の湯ユツ津

楓樹アヲノキのよまなりてソ事一天神の詔ミコトノリのト

天作具賣アノサリの神其言成河一く天雅彦

階りて世をハ其鳴る甚思一ソノナリ村教イトア是ト

とくもさくむ天雅彦死小天神の禰ニひ

不アミノの天く彼ハコユミさら天加久矣アノカリヤと持チく

矢逆オカホニ村サロキノとく天也河の河系小中成天彦成神

高本神の所係小及り其言成神トハ高皇

彦彦神の別名也言本神其言矣とそりて

んニのよま天雅彦禰ひ一物ニありてその也

小は血彦ニありすなりとら諸神ニおし

ゆひく武の天雅を命成得くまき悪神を討

くし一取矢ありしふ天雅を子仲らし武の邪

心あらしり天雅を若夫まで麻世礼とまひて

まををの初と初述ししひし

天雅をの夜もく高狗板が仲つて死侍

今後ま天雅の夜使又述矢長むくす新成の

也雅の夜使事ちうに考るし西の事記す少のりり
也 日記のハ云名雅とあるされし成天書にハ書也

うまれて被命成始又其切右をまにかりしり其の夜
ゆりうとらんを名とひしハ其夜名
なり其得なりし一終今も夜しき人と新し
名もあまの也なとハ右の選活とみく
あり又高車記ハ小島神諸神ホ云名
雅を信らるし一とハ云名雅を信らるハ
これハ小島雅と名と西の事記ハ云名雅を信らるハ
其夜使又信らるし一とハ云名雅を信らるハ
諸神ホ云名雅を信らるし一とハ云名雅を信らるハ
小島雅を信らるし一とハ云名雅を信らるハ
とひし又長みて高車記ハ云名雅を信らるハ
ありこれありし一とハ云名雅を信らるハ
射教さるし一とハ云名雅を信らるハ
云名雅を信らるし一とハ云名雅を信らるハ

子は、小丸をりて、枝子ハ石死を結成、枝子ハ死

望、神理としひて、哭悲し、しつ石志、貴高日子

根神、死入人子、比、操、事、を、思、り、て、佩、せ、し、ほ

斗、掬、劍、成、抜、く、其、孝、心、成、切、伏、と、是、成、以、く

漱、放、ち、遣、ほ、英、濤、國、藍、見、河、く、河、と、し、つ、ら

孝、心、と、し、つ、ら、の、女、也、其、切、を、ら、去、り、つ、ら、大

量、と、し、つ、ら、ハ、神、度、劍、と、し、つ、ら、志、貴、高、日

子、根、神、理、を、り、し、つ、ら、其、妹、と、思、比、賣、命、其、河

右、と、つ、ら、と、し、つ、ら、事、と、思、ひ、て、泣、成、を、り、つ、ら、流

夜、泣、成、を、り、つ、ら、世、流、多、麻、能、美、原

麻、流、英、須、流、述、河、に、配、麻、波、夜、英、多、述、布、多、勢

母、次、河、流、志、貴、多、也、比、古、泥、能、世、徹、を、也、女、欲、美、夫

握、也、下、思、昭、の、哭、を、天、り、つ、ら、し、つ、ら、事、と、し、つ、ら、又

其、事、と、神、子、と、思、ひ、つ、ら、の、父、也、左、務、成、の、父、と、書、

み、つ、ら、也、右、と、し、つ、ら、天、雅、成、の、死、を、り、つ、ら、子、能、て、存、在、也

つせ入アリケリ
キハハワセス

ちとよまのこくにもく
古所の國凡の神のこくもく

左神又ツリも神をうはつともさるまゝと

及ひ諸神より一物一物一々一々天女河の空

天石宮也アミノイハムロ 治江放イフノリヨハハカリノ 尾好張神也オノヨシノ 是はつり

ツリ魚ツリイサ 又其神よりす其神より子

建神高ツチノノチノカミ 日神ニヒノカミ 是はつり魚イサ 又其天アミ 尾好

張神オノヨシノ 是はつり天女河の水アミメノミヅ 流塞セキ とくはと塞セキ 流ナガレ

君也ミコト 地神チノカミ 由ヨリ 事コト 流ナガレ 物モノ 天也アミ 是はつり神カミ 一ヒト 物モノ

同ドウ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ

流ナガレ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ

流ナガレ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ

流ナガレ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ

流ナガレ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ

流ナガレ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ

流ナガレ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ 一ヒト 物モノ

女子イハツマ菅原男イハツマ菅原女メの生ナつるツ不ツ純マ津メ之シ命ヒ

ツレツシシケシヒヒトトカカリリススモモシシママリリトト武タケ内ニ名ナ神カミと

須ス津ツ之ノ神カミ子コ割ワリリとト流ナルル海ウミ一ヒト川カハ也ナリ天アメ名ナ高タカ神カミ

武タケ内ニ高タカ神カミ也ナリ割ワリリとト流ナルル海ウミ一ヒト川カハ也ナリ天アメ名ナ高タカ神カミ

少コ中ナカ高タカ神カミ也ナリ割ワリリとト流ナルル海ウミ一ヒト川カハ也ナリ天アメ名ナ高タカ神カミ

神カミ受ウケ祠ヒコ也ナリ天アメ之ノ德チカラ曰イハレ命イハレ其ソノ子コ天アメ夷ヒ高タカ命イハレにニ命イハレ加カ也ナリ

一、河内御津より、雲石の血湯津に付小を物と
りまら神、右の墨裂根列長神と云々、みたり、
津之神ハ布衣志、神ともあり、
あり、中流も、長取右神、左神、又、齋、
大人とも、神、右、ハ、神、東國、攝、取、地、
遠、近、武、也、も、香、取、ま、り、
ハ、神、又、ま、り、社、長、二、殿、も、
ハ、神、又、ま、り、社、長、二、殿、も、
ハ、神、又、ま、り、社、長、二、殿、も、

一、我、少、子、の、初、七、日、
一、我、少、子、の、初、七、日、
一、我、少、子、の、初、七、日、

一、我、少、子、の、初、七、日、
一、我、少、子、の、初、七、日、
一、我、少、子、の、初、七、日、

一、我、少、子、の、初、七、日、
一、我、少、子、の、初、七、日、
一、我、少、子、の、初、七、日、

一、我、少、子、の、初、七、日、
一、我、少、子、の、初、七、日、
一、我、少、子、の、初、七、日、

神我^{カミ}はた^カキ^キ〜我子^{ミコ}八事^{ハツコト}事^{コト}計^{ハカリ}之^ノ神^{カミ}也^{ナリ}

也^{ナリ}神^{カミ}の^ノ功^{イサメ}を^ヲ以^テて^テ言^フ事^{コト}也^{ナリ}

按^{アツ}一^{ヒト}矣^{ナリ}約^{アツ}〜計^{ハカリ}之^ノ神^{カミ}也^{ナリ}

はら〜微^{カザ}も〜〜わて同^{カサ}の^ノ事^{コト}也^{ナリ}

父^{カザ}の^ノ神^{カミ}也^{ナリ}報^{カザル}之^ノ功^{イサメ}也^{ナリ}

小^コま〜れ^レと^トカ^カ〜礼^レと^トて^テ下^シぬ^ニら^ニま^シぬ^ニ也^{ナリ}

傾^{カガ}て^テ天^{アマ}逆^{サカ}る^ニと^ト青^{アヲ}葉^ハ垣^ハ也^{ナリ}

神^{カミ}也^{ナリ}神^{カミ}の^ノ功^{イサメ}を^ヲ以^テて^テ言^フ事^{コト}也^{ナリ}神^{カミ}の^ノ功^{イサメ}を^ヲ以^テて^テ言^フ事^{コト}也^{ナリ}神^{カミ}の^ノ功^{イサメ}を^ヲ以^テて^テ言^フ事^{コト}也^{ナリ}神^{カミ}の^ノ功^{イサメ}を^ヲ以^テて^テ言^フ事^{コト}也^{ナリ}

世をさしつゝ也たゞく運ぶと云ふは後まふと云ふは
とらふなり神代の中世も世も初めはゆきす
後も月日の中とらん神代を初め人を思ひ置
けりともとて後うほまきりゆり神代より
下り反響とて後うほまきりゆり神代より
とらふなり神代の中世も世も初めはゆきす
事ハ此世の中とらん神代を初め人を思ひ置
也者集垣の書案とて後まきりゆり神代より
ふらふなり神代の中世も世も初めはゆきす
ハ此世の中とらん神代を初め人を思ひ置
也者集垣の書案とて後まきりゆり神代より

我子又建御名方神代ハツキヤ又ヤキ
とらふなり神代の中世も世も初めはゆきす
スハチキ
東ノチリノ石を浮けまきりて後まきりゆり
事ハ此世の中とらん神代を初め人を思ひ置
也者集垣の書案とて後まきりゆり神代より
ふらふなり神代の中世も世も初めはゆきす
ハ此世の中とらん神代を初め人を思ひ置
也者集垣の書案とて後まきりゆり神代より
又訓の女ナ成して後まきりゆり神代より

若の字を解りて船の字とせりて月也高事と云
おの記一みち一不^ニとてに^ニか^ニく^ニの^ニと^ニ一^ニち^ニれ^ニを
とのゆりも^ニり^ニを^ニる^ニ一^ニと^ニ事^ニ也^ニ連^ニ所^ニ名^ニ方^ニ神^ニを^ニ引^ニ石^ニ
と^ニ事^ニ不^ニ修^ニ一^ニと^ニ神^ニの^ニも^ニと^ニ大^ニ口^ニ口^ニ飯^ニと^ニ取^ニ成^ニ
と^ニ一^ニち^ニと^ニい^ニあ^ニり^ニあ^ニる^ニ又^ニい^ニけ^ニ一^ニの^ニ信^ニを^ニ嗣^ニ一^ニ不^ニと^ニ文^ニ
名^ニり^ニと^ニされ^ニと^ニ高^ニ事^ニ記^ニ小^ニ連^ニ所^ニ名^ニ方^ニ神^ニの^ニも^ニと^ニを^ニ取^ニ
投^ニ離^ニら^ニる^ニ一^ニハ^ニ神^ニの^ニ中^ニに^ニあ^ニる^ニ神^ニと^ニい^ニふ^ニも^ニ成^ニら^ニる
と^ニれ^ニら^ニハ^ニ其^ニ文^ニの^ニ詳^ニ編^ニを^ニら^ニや^ニ古^ニ事^ニ記^ニ小^ニ連^ニ所^ニ高^ニ
神^ニと^ニ大^ニ多^ニ和^ニ神^ニと^ニ別^ニと^ニけ^ニら^ニハ^ニされ^ニ一^ニと^ニみ^ニえ^ニられ
ハ^ニ連^ニ所^ニ名^ニ方^ニ神^ニの^ニも^ニと^ニを^ニ取^ニれ^ニ一^ニと^ニ投^ニ離^ニら^ニる^ニ一^ニ
と^ニ連^ニ所^ニ高^ニ神^ニの^ニも^ニと^ニは^ニ其^ニ文^ニに^ニ修^ニら^ニる^ニ也^ニ神^ニ神^ニ也^ニ國^ニハ
男^ニ今^ニの^ニ信^ニ濃^ニ國^ニ也^ニ列^ニ胆^ニ海^ニハ^ニ今^ニの^ニ後^ニ防^ニの^ニ御^ニ成^ニ
不^ニ二^ニ柱^ニハ^ニ神^ニ更^ニ小^ニを^ニり^ニ集^ニり^ニて^ニ汝^ニの^ニ子^ニホ^ニ二^ニ柱^ニ
コソテ

天神沖子乃今^ニは^ニあ^ニれ^ニく^ニ遠^ニ事^ニを^ニけ^ニむ
と^ニ神^ニ汝^ニ汝^ニの^ニを^ニい^ニふ^ニと^ニ國^ニ神^ニ高^ニ神^ニ子^ニ
等^ニと^ニい^ニふ^ニと^ニい^ニふ^ニハ^ニ神^ニ又^ニ遠^ニ一^ニハ^ニ事^ニ京^ニ
中國^ニハ^ニ今^ニは^ニあ^ニれ^ニく^ニ神^ニ子^ニ高^ニ神^ニハ^ニあ^ニれ^ニら^ニ
事^ニ代^ニ主^ニ神^ニ神^ニハ^ニ尾^ニ前^ニと^ニあ^ニり^ニて^ニは^ニ事^ニ遠^ニ不^ニ
神^ニハ^ニ河^ニに^ニと^ニ一^ニ神^ニ防^ニ所^ニ宗^ニ神^ニハ^ニ國^ニ内^ニ諸^ニ神^ニ
フセキ
必^ニ同^ニ一^ニ防^ニ宗^ニて^ニは^ニ我^ニ也^ニと^ニは^ニ誰^ニか^ニ也^ニの^ニ
フセキ
ミソロ

しどくしどく^{ムケ}しどく^{ツケ}しどく^{ヒロホコ}を國年一^{ムケ}時杖^{ツケ}ア^{ヒロホコ}一^{ヒロホコ}後身と^{ヒロホコ}

二柱の神也^{ヒロホコ}故に^{ヒロホコ}ク^{ヒロホコ}我^{ヒロホコ}世^{ヒロホコ}身^{ヒロホコ}と^{ヒロホコ}は^{ヒロホコ}白^{ヒロホコ}也^{ヒロホコ}切^{ヒロホコ}成^{ヒロホコ}也^{ヒロホコ}將^{ヒロホコ}

車^{ヒロホコ}の^{ヒロホコ}り^{ヒロホコ}し^{ヒロホコ}天^{ヒロホコ}の^{ヒロホコ}子^{ヒロホコ}也^{ヒロホコ}一^{ヒロホコ}世^{ヒロホコ}身^{ヒロホコ}と^{ヒロホコ}も^{ヒロホコ}ら^{ヒロホコ}て^{ヒロホコ}國^{ヒロホコ}成^{ヒロホコ}

詔^{ヒロホコ}の^{ヒロホコ}終^{ヒロホコ}り^{ヒロホコ}必^{ヒロホコ}す^{ヒロホコ}年^{ヒロホコ}安^{ヒロホコ}神^{ヒロホコ}一^{ヒロホコ}ま^{ヒロホコ}じ^{ヒロホコ}今^{ヒロホコ}我^{ヒロホコ}百^{ヒロホコ}身^{ヒロホコ}也^{ヒロホコ}其^{ヒロホコ}

八十^{ヒロホコ}障^{ヒロホコ}也^{ヒロホコ}多^{ヒロホコ}く^{ヒロホコ}隱^{ヒロホコ}也^{ヒロホコ}て^{ヒロホコ}は^{ヒロホコ}は^{ヒロホコ}じ^{ヒロホコ}と^{ヒロホコ}ひ^{ヒロホコ}元^{ヒロホコ}り^{ヒロホコ}と^{ヒロホコ}遊^{ヒロホコ}

小^{ヒロホコ}隱^{ヒロホコ}也^{ヒロホコ}多^{ヒロホコ}く^{ヒロホコ}隱^{ヒロホコ}也^{ヒロホコ}て^{ヒロホコ}は^{ヒロホコ}は^{ヒロホコ}じ^{ヒロホコ}と^{ヒロホコ}ひ^{ヒロホコ}元^{ヒロホコ}り^{ヒロホコ}と^{ヒロホコ}遊^{ヒロホコ}

小^{ヒロホコ}隱^{ヒロホコ}ひ^{ヒロホコ}て^{ヒロホコ}其^{ヒロホコ}國^{ヒロホコ}と^{ヒロホコ}也^{ヒロホコ}多^{ヒロホコ}く^{ヒロホコ}隱^{ヒロホコ}也^{ヒロホコ}て^{ヒロホコ}は^{ヒロホコ}は^{ヒロホコ}じ^{ヒロホコ}と^{ヒロホコ}ひ^{ヒロホコ}元^{ヒロホコ}り^{ヒロホコ}と^{ヒロホコ}遊^{ヒロホコ}

八十^{ヒロホコ}障^{ヒロホコ}也^{ヒロホコ}多^{ヒロホコ}く^{ヒロホコ}隱^{ヒロホコ}也^{ヒロホコ}て^{ヒロホコ}は^{ヒロホコ}は^{ヒロホコ}じ^{ヒロホコ}と^{ヒロホコ}ひ^{ヒロホコ}元^{ヒロホコ}り^{ヒロホコ}と^{ヒロホコ}遊^{ヒロホコ}

やらまきとみえり一りと其津宮ハ世後ホ大社の祀
わく違へりまのくもくもく一也神は神はみりり
隱（隠）^{カリコトエラ}ハカカナシク^{カハミ}カガエテニ柱ハ神ホ天
皇よりレテ後命寸^{カハミ}古事元ハ世津島ノ津を奉り
神津島神は事ハみえす是ハは元ハハ世神も
世は事神は事ハみえす是ハは元ハハ世神も
と高（高）^{カハミ}高直彦尊神ニ柱ハ神とを
治（治）^{カハミ}治（治）大己貴神ハ神一と今ハ世の言
と聞（聞）^{カハミ}中（中）^{カハミ}中（中）^{カハミ}深（深）^{カハミ}其（其）^{カハミ}理（理）^{カハミ}行（行）^{カハミ}世（世）^{カハミ}取（取）^{カハミ}文（文）^{カハミ}不（不）^{カハミ}降（降）^{カハミ}く（く）^{カハミ}セ（セ）^{カハミ}リ（リ）^{カハミ}

能（能）^{カハミ}世（世）^{カハミ}知（知）^{カハミ}ら（ら）ず（ず）^{カハミ}顕（顕）^{カハミ}露（露）^{カハミ}事（事）^{カハミ}ハ（ハ）^{カハミ}我（我）^{カハミ}少（少）^{カハミ}子（子）^{カハミ}一（一）^{カハミ}
知（知）^{カハミ}す（す）^{カハミ}一（一）^{カハミ}一（一）^{カハミ}世（世）^{カハミ}又（又）^{カハミ}世（世）^{カハミ}多（多）^{カハミ}天（天）^{カハミ}日（日）^{カハミ}隅（隅）^{カハミ}宮（宮）^{カハミ}ナ（ナ）^{カハミ}河（河）^{カハミ}辺（辺）^{カハミ}一（一）^{カハミ}今（今）^{カハミ}遠（遠）^{カハミ}り（り）
多（多）^{カハミ}事（事）^{カハミ}ナ（ナ）^{カハミ}千（千）^{カハミ}尋（尋）^{カハミ}ナ（ナ）^{カハミ}考（考）^{カハミ}總（總）^{カハミ}は（は）^{カハミ}知（知）^{カハミ}ら（ら）ず（ず）^{カハミ}一（一）^{カハミ}百（百）^{カハミ}十（十）^{カハミ}紀（紀）^{カハミ}事（事）^{カハミ}也（也）^{カハミ}
其（其）^{カハミ}宮（宮）^{カハミ}と（と）^{カハミ}遠（遠）^{カハミ}百（百）^{カハミ}割（割）^{カハミ}ハ（ハ）^{カハミ}柱（柱）^{カハミ}を（を）^{カハミ}す（す）^{カハミ}事（事）^{カハミ}ら（ら）^{カハミ}高（高）^{カハミ}一（一）^{カハミ}左（左）^{カハミ}一（一）^{カハミ}
板（板）^{カハミ}ハ（ハ）^{カハミ}多（多）^{カハミ}事（事）^{カハミ}ら（ら）^{カハミ}廣（廣）^{カハミ}く（く）^{カハミ}字（字）^{カハミ}く（く）^{カハミ}也（也）^{カハミ}又（又）^{カハミ}也（也）^{カハミ}ら（ら）^{カハミ}世（世）^{カハミ}中（中）^{カハミ}田（田）^{カハミ}也（也）^{カハミ}
ら（ら）^{カハミ}是（是）^{カハミ}家（家）^{カハミ}小（小）^{カハミ}後（後）^{カハミ}不（不）^{カハミ}正（正）^{カハミ}の（の）^{カハミ}農（農）^{カハミ}穀（穀）^{カハミ}は（は）^{カハミ}茂（茂）^{カハミ}一（一）^{カハミ}宮（宮）^{カハミ}一（一）^{カハミ}也（也）^{カハミ}

又此の巻記...^{カリコトマウ}の天徳日命也

の...^{ミコト}大己貴神報して...

懇^コ懇^コ也^{アエ}致^アく...

丁^ス多^スら^マ...

げ^カりては^ナ...

の^オ...^ナ...

原^ハを^シ...

用^ユを^ヒ...^ナ...^ナ...^ナ...^ナ...^ナ...^ナ...^ナ...

神建業題令と注らるる如すなりしを以て流文神と云
新國利城東と云ふとみたり非神と云國神の流
りんとしひ事本石と云ふとみたり也其まゝ人等が如く
なりし一神非神と云ふは國神の流とみたり
一説は天の如く取の神神と云ふとみたり流文神は
高事紀の如く流文遠東の流天照神と云ふ流
小葉越神は常陸國流文と云ふ流文に
流文神と云ふ流文と云ふは布衣文と云ふ流文に
如く取也と云ふとみたりと云ふは流文に
神は其神と云ふ取也神名と云ふは流文に
高下初高本流文と云ふ天照神と云ふは流文
其神と云ふ取也と云ふとみたり又口本紀の如く
初て神流文に流文と云ふと云ふは流文に
と云ふは流文に流文と云ふと云ふは流文に

名ハ天津彦彦星尊命又ハ天ノ香ノ肖男ト云フ
其神と云ふと云ふは流文に流文と云ふは流文に
國を授けしと云ふと云ふは流文に流文と云ふは流文に
事其流文に流文と云ふは流文に流文と云ふは流文に
其神と云ふ取也と云ふは流文に流文と云ふは流文に
代主神と云ふと云ふは流文に流文と云ふは流文に
て流文と云ふと云ふは流文に流文と云ふは流文に
高本神と云ふと云ふは流文に流文と云ふは流文に
書と云ふは流文に流文と云ふは流文に

神天孫ホレハ也紀子洋あり天皇ハ流レテ不

のとのいしり洋あり十種賜食ハ瀛洲流

迄能流ハ振劬生也死反也道反也

比礼許比礼也物比礼也道也

詳な 比天會賜寶ホレ高事紀子あり神

海警余者天皇也時

子守麻志麻治命天皇也故也

大和國山鳥為石と津宮也

津とありもの即也又法鬼家のるも世

賢子らて治を名也

神ホレ高事記ふらあり一筆糸中園小

一と皇孫成治きありと海神よあり

小たりく徳り治年しつと乙未年午二金

小治治たりして去路ありとみあり其年二十人

アノカフヤテノニコト

天香諸止命

名ハ年粟彦命又云命下命ともいふ
統連口ノ言天子をす時子天道口女神成

此トリテすみみし

天細賣命天右主命

天児命

以トシ神事
天柳主命
鴨野主命

高主命高少彥命子とみへり神名式古和國派下弟
高主命高少彥命比古神社ともいふ其神ともいふ高主命高少彥命

天道根命

川根主命の祖氏派子神名式古和國派下弟
孫とみへり神事

天神主命

天楳野命
神名式古和國派下弟

天糠戸命

天沼主命
天沼主命

子也といふ元祖の一事小みへり此氏派
りかき。氣ノ命孫とて皇孫子信從て天路をり

天ノ村主命

天ノ村主命と云ふ事
鳥事紀子天ノ香諸止命

子天村主の命又名ハ天ノ入多彦ノ命といふ事
尾法連主の祖也父の神と古ハ天路をり

村主ノ命又名ハ天ノ入多彦ノ命といふ事
天ノ入多彦ノ命といふ事

天二と一人名ハ後山ノ命といふ事
天ノ入多彦ノ命といふ事

十二世ノ孫なりといふ事
天ノ入多彦ノ命といふ事

天ノ持

天ノ持

男命 セニロユカ 山背久我重ホの孫とつふ此氏源より

天背男命 又ハ河麻の面手其命と云ふるこれ其
神祖みせの孫とて天壁命の子と云ふり〇栲杵小
木の十又天背男命と云ふり一本ハ下

天川原命 カシカウチ 元内重ホ
の孫此氏源

天造日女命 アミツクリヒメ 天智連ホの

天世平命 アミノヨシラ 天智連ホの孫
天智連ホの孫と云ふり

天智連ホの孫と云ふり
天智連ホの孫と云ふり

天背男命 セニロユカ 尾形中務海部重ホの孫と云ふり〇栲杵
小木の十又天背男命と云ふり一本ハ下

天智連ホの孫と云ふり
天智連ホの孫と云ふり

天智連ホの孫と云ふり
天智連ホの孫と云ふり

天智連ホの孫と云ふり
天智連ホの孫と云ふり

天智連ホの孫と云ふり
天智連ホの孫と云ふり

天智連ホの孫と云ふり
天智連ホの孫と云ふり

天智連ホの孫と云ふり
天智連ホの孫と云ふり

天智連ホの孫と云ふり
天智連ホの孫と云ふり

天智連ホの孫と云ふり
天智連ホの孫と云ふり

天智連ホの孫と云ふり
天智連ホの孫と云ふり

天^{イナキニ}河^ニ波^ニ志^ニ述^ニ保^ニ命^ニ 山代、國邊 天^{イソケニ}治^ニ主^ニ命^ニ 新田

由^ホ命^ニ 天^{スクリマコ}少^ニ老^ニ相^ニ命^ニ 多敷連 天^{コト}事^ニ湯^ニ養^ニ命^ニ ヒコ

畝^ノ尾^ニ連^ニ命^ニ 此氏、神 天^{コト}事^ニ湯^ニ養^ニ命^ニ 此氏、神

天^ノ春^ニ奉^ニ命^ニ 遠東の祀 天^ノ下^ニ春^ニ奉^ニ命^ニ 此氏、神

天^ノ月^ニ神^ニ命^ニ 此氏、神

月^ノ令^ニ 此氏、神

彼^ノ國^ニ 此氏、神

天^ノ神^ニ 此氏、神

孫^ノ子^ニ 此氏、神

天^ノ津^ニ 此氏、神

天^ノ事^ニ 此氏、神

天^ノ神^ニ 此氏、神

天^ノ津^ニ 此氏、神

天^ノ津^ニ 此氏、神

十市放首トヲイテ祖寫寫フフ沿流ツルタリ沿口ツルタリ物モノ物モノ

祖天津アカホシ赤甲アカホシ入入物物造造ハ高車ヒキ祀祀子子居居入入物物造造

為ナシ津トモト之之天天物物物物軍軍依依て天天路路トトノノ入入物物

みえも色ハ入物造者入物造の物造を軍依て奉

進進小小江江小小入入物物造造トトノノ入入物物造造トトノノ入入物物造造トトノノ入入物物造造

入物造ハ地地名名ナナリリて其其辨辨トトナナリリトトノノ入入物物造造

二口造ト新新國國小小新新田田物物造造田田物物造造田田物物造造田田物物造造

大庭造ヲホバノ常陸國茨城郡ト舎人造ト上野の舎人ト

曾根造一本小曾蘇の字と慶の字に似たりトトノノ入入物物造造

坂戸造常陸國水戸郡坂戸天物造トハ二十入物造ト

入物造トノノ入入物物造造トトノノ入入物物造造トトノノ入入物物造造

昂ヒレ名カ士ツル也ト延ト長モ武ト氏モ比シ礼レ桂カ津ツ男ヲ

子シ極キ桂カ津ツ男ヲ教ウ員イ津ツ男ヲ訓ス佩イ洋ウ男ヲ津ツ男ヲ

能ノ半ヤ伴ヲ男トトトノノ入入物物造造トトノノ入入物物造造

第廿二物部 二四物部 二四ハ正字ナラズ新田也

物部 常陸國麻治郡子高麻の巻は

物部 又物部高麻の字と誤る

物部 常陸國治左郡小高見止

物部 横田ノ物部

物部 横田ノ物部 未詳 鴻ノ物部 未詳 浮田物部 未詳 卷臣

物部 止田物部 上野國 酒人ノ物部 酒人ハ恒戸也酒人ハ前子也

口尻物部 上野國 赤間物部 赤間ノ物部

杖折物部 常陸國久慈郡 大夏物部 常陸國

物部 常陸國久慈郡 又來月物部 事ハト子也

物部 常陸國久慈郡 大夏物部 常陸國

物部 常陸國久慈郡 大夏物部 常陸國

物部 常陸國久慈郡 大夏物部 常陸國

物部 常陸國久慈郡 大夏物部 常陸國

物部 常陸國久慈郡 大夏物部 常陸國

物部 常陸國久慈郡 大夏物部 常陸國

木曾の國 天徳寺 上総國 相模抄部 下総ノ國

大槻河内ノ此氏降 大槻河内ノ此氏降 落出来用抄部 落出来用抄部

播磨抄部 常陸國鹿嶋抄部 紀伊抄部 紀伊抄部

前抄部 前抄部 紀伊抄部 紀伊抄部 紀伊抄部 紀伊抄部

遠本の紀大藤原 遠本の紀大藤原 紀伊抄部 紀伊抄部

紀子清隆師 紀子清隆師 紀伊抄部 紀伊抄部

紀伊抄部 紀伊抄部 紀伊抄部 紀伊抄部

の事とほりさしりふとみくわりの抄部

小大忠徳平の事には筆本中国小大徳の事

わがにほわが小忠徳平の事には高事記の事

右武蔵抄部 右武蔵抄部 紀伊抄部 紀伊抄部

神社中 神社中 紀伊抄部 紀伊抄部

紀伊抄部 紀伊抄部 紀伊抄部 紀伊抄部

徳平の事 徳平の事 紀伊抄部 紀伊抄部

らるる神代也... 不祥

鏡連曰言天神以社其福をけりし天磐船

小宮り天翔りあひて河内と河上考考

路りあひて... 遷

神代世神代始と... 神

りりし... 鏡連曰言

神を... 天進觀神

路り... 天と... 華

天... 磐船と... 天磐船

是... 天磐船と... 天磐船

い... 神代... 齋

天... 神代... 齋

み... 天... 齋

天... 東西... 海

といふなりと一河内首尾行回和泉國
 小坂地那今も行程果まのまじ地又河上
 考るに考る字漢じふといふやわりとも
 と考るを以て又其處不も東洋神名式
 大和國本務初記曰此天少根國神神社
 とみえ一ハ水首天路を一始と述は
 正名やわりといふ白庭止東洋天滿國ハ即今

大和國也舊事紀ハ饒速日言天磐船
 ありて大産名を翔りて是^{ハト}巡り廻て
 産見見日本書紀是名との^{ソラ}ひとみえり
 旧事紀ハみえ一初と舊事紀の文をよみて饒速日
 言名はあらしと名を日本書紀との^{ソラ}ひ
 とあらしと名ハそ翔りて^{ソラ}大産名
 止りて一初と名をよみて^{ソラ}名ハ被
 止れ^{ソラ}西^ミらりて^{ソラ}名ハ被^{ソラ}

那麻也の国といふ事下一那麻也といふハ

那麻也といふ事高説小武ハ山ノ如といひ武々

山也といふ事高説小武ハ山ノ如といひ武々

高説小武ハ山ノ如といひ武々

高説小武ハ山ノ如といひ武々

高説小武ハ山ノ如といひ武々

高説小武ハ山ノ如といひ武々

其國神女ハ高事死ハ吾題名ハ妹沙牧

高事死ハ吾題名ハ妹沙牧

高事死ハ吾題名ハ妹沙牧

高事死ハ吾題名ハ妹沙牧

高事死ハ吾題名ハ妹沙牧

高事死ハ吾題名ハ妹沙牧

高事死ハ吾題名ハ妹沙牧

饒速日言神を少ひり六すれらるるをりより

て湛命す高曾高曾神取流りひく連

紀命して其柢と美上十奉り一少日七夜七遊

樂取流り一華飲りひりともえもや

舟子武ハ七口七夜武ハ八口七夜啼哭り一悲飲

舟のり高事祀り一み下八口八夜啼哭り

悲飲指すりぬとあ流るん古事祀り八口七夜啼哭り

男すらの連親神ハ釋日む地から流れ口七夜祀り

みえ一^{ハヤテ}流風とお同り一とん由流風ハ凡

神也と慕流中はみえり一とけ流らりりり

あまハうと舟用ハ使りり神の名をり

うんハ連親命ともあるん^{たはハ健高神}

てハ^{事のし}りりり

饒速日言神をまはり舟子其^ヒ祀り命りて世

カナシイオケ

ヒツキ アソ

アケ

ヒナハツヨサツユ

ラギ

カクシニツ

と古れ信
ハハ華飲

此の事も子も一男子ならむと申す味問見命ウシニニ

名は若くは女子ならむと申す久麻彦命シヨニニ

名は若くは女子ならむと申す及ひて皇孫ヒコカミ

小て申すはれはすれは味問見命と名はウシニニ

若くは若くは後又饒速日言を死に及ぶと申すヒコカミ

此の事も我形留命の事と申すはすれは天の皇カミミセ

賜言つり天の母く天の母く天の母く又神孫カミミソ

常と手貫と之物成ハ登黄白庭村也カシニ

歎く神孫也と申すはすれは味問見命ウシニニ

味問見命は誤て申す解志の命と申すウシニニ

命の事は若くはみえたり形見物と申す人ウシニニ

此物成えり若くは形見物と申すは味問見命ウシニニ

昔賜言ハ若くはみえたり天の母く天の母

天の母く天の母く天の母く天の母く天の母

与天路ヨリもと村ムラ不スル沖イ物スル也ナリ神カミ名ナ第イ其ノ遺ユイ

名ナ第イ也ナリ手テ貫ス八ツ形カタチ射ユ鞞シ也ナリ淡タ々タ也ナリ

とシ西サイ抄セウ名ナ今イマノコト不スル子コ其ノ道ミチ割ワ也ナリ

此コノ皇ミコ孫ミマ神カミニツキシテ後ノチ其ノ此ノ号ナメ也ナリ

少コト其ノ山ヤマ子コ也ナリ物モノ見ミ之ノ後ノチ果ツキ也ナリ

神カミ山ヤマ子コ也ナリ其ノ事コト也ナリ

神武天皇東征白河其母ノ
天ノ命トシテスレリト連
日ノ命天ノ神ノ命ヲシテ
事ニ成ルニ至リテ
其母ノ命ヲシテ天ノ命
トシテ其母ノ命ヲシテ
天ノ命トシテスレリト連

其事ハ其母ノ命也 又ナシテ其母トハ夫ノ奉テ葉飲

らる事也

間ハ葉飲

鳥名トシテ其母ノ命也

上ノ鳥名トシテ其母ノ命也

西ノ鳥名トシテ其母ノ命也

東ノ鳥名トシテ其母ノ命也

石川郡神田神社祭主を以て凡そ祀りたる皆
是世神と云ふ事あり也。初天神に祀る者
平良川に比しては、饒速日と云ふ天神也。
事高事祀ふみえ。不^レ分^レか^レる^レなり。
ゆゑ古事記曰く祀ふは坐事と云ふなり。
曰く祀の神は古事記に終ふ天神に子揃と
饒速日と云ふ事あり。天神の事。ゆゑ言はれど。

と云ふ事。天神の事。ゆゑ言はれど。
ゆゑ古事記に終ふ天神に子揃と
饒速日と云ふ事あり。天神の事。ゆゑ言はれど。
ゆゑ古事記に終ふ天神に子揃と
饒速日と云ふ事あり。天神の事。ゆゑ言はれど。
ゆゑ古事記に終ふ天神に子揃と
饒速日と云ふ事あり。天神の事。ゆゑ言はれど。
ゆゑ古事記に終ふ天神に子揃と
饒速日と云ふ事あり。天神の事。ゆゑ言はれど。
ゆゑ古事記に終ふ天神に子揃と
饒速日と云ふ事あり。天神の事。ゆゑ言はれど。

其謂わたりとくふと一武人の説あり一萬の衆
流中獨りして腕連口言ハ漫く持たれしと也其
ゆ子二人ありとくふと一武人の説あり一萬の衆
命とくふと也増く持たるハ腕連口言のゆ也
其ゆ子^{ヒコ}成る火火^{ホホテミ}と見たりとすた火と見たり
たゆ子と^{ワカヤ}嚴鷲草^{ツキアハセス}と合たりとす(嚴鷲草
背^{カン}不合^{ヤマトイハシヒコ}たゆ子^{カニ}成神^{ヤマトイハシヒコ}日本^{ヤマト}磐余^{ヤマト}成るとり即
是神武天皇御代ゆ事也^{カニ}ゆ事也^{ヤマト}ゆ事也^{ヤマト}ゆ事也^{ヤマト}東
江の口ゆ天皇御代ゆ事也^{カニ}ゆ事也^{ヤマト}ゆ事也^{ヤマト}ゆ事也^{ヤマト}
宇麻志麻治命ハ其外男也^{カニ}其外男也^{ヤマト}其外男也^{ヤマト}其外男也^{ヤマト}其外男也^{ヤマト}
小搦り^{カニ}とくふと一武人の説あり一萬の衆^{ヤマト}
一^{カニ}武の天皇御代^{ヤマト}成るとり^{カニ}腕連口言^{ヤマト}
ゆ事也^{カニ}漫く持たるのゆ事也^{ヤマト}漫く持たるのゆ事也^{ヤマト}
くもれ^{カニ}とくふと一武人の説あり一萬の衆^{ヤマト}

事記がも基説と云はれ口本記やと基説
接くもととみふふふ也是く上右の事存
とらふとくもとくもとくもとくもとくも
らうとくもとくもとくもとくもとくも
口本記高事古事記口本記のみえ
大島穂耳言とくもとくもとくもとくも
少子也とくもとくもとくもとくも

高事記口本記お接り時大島貴神と云はれ
大島神は少子とみえたりと云はれ穂耳言
並に少子濃く梓言と大島貴神の基説
同くもとくもとくもとくもとくも
口本記の書此氏源より接り時大島貴神
大島貴神の世の孫也と云はれとみえ
と云はれ少接りも大島貴神少子と云はれ

粟産命亦ハ高倉下命トシテ言レハ
式ハ瀨又式ハ隈写リトミエテ梅宮ハ既述
曰クトテハ天ノ御祖トシテ少別名天者諸山ノ
命トシテ天者諸山命ノ子トシテ粟産命トシテ
子粟産命ノ命ノ子ハ高倉下命トシテ言レハ
命其神教テハ神武天皇ノ神トシテ也
ミルヒ曰ク此ハ天者御祖トシテ坂津トシテ言レハ

アラハコノ

彼^{カシ}人^{カシ}ノ御祖トシテ高倉下命トシテ言レハ

小神教テハ神武天皇ノ神トシテ也

此ハ高倉下命ノ命ノ子トシテ言レハ

諸山命ノ一石ノトシテ言レハ

又高倉下命ハ天ノ尾相神ノ命トシテ又名ハ積威

連日神トシテ言レハ神武天皇ノ御祖トシテ言レハ
高倉下命ハ天ノ尾相神トシテ言レハ
小神教テハ神武天皇ノ神トシテ也

八

名とみすけりしりも成是とするもあまのりしり
おハ一神と殺名りらりしり或ハ一神あり一名あり事
の由おたのりしり
又ハ一神と殺名りらりしり

今世ハ一神と殺名りらりしり

治心命ハ一神と殺名りらりしり

と一神と殺名りらりしり

小見ハ一神と殺名りらりしり

小接ハ一神と殺名りらりしり

中ハ一神と殺名りらりしり

治心命ハ一神と殺名りらりしり

治心命ハ一神と殺名りらりしり

治心命ハ一神と殺名りらりしり

治心命ハ一神と殺名りらりしり

治心命ハ一神と殺名りらりしり

治心命ハ一神と殺名りらりしり

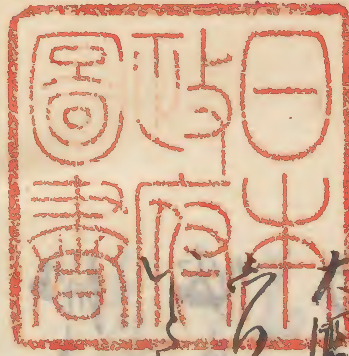
沙字ハ萬乃ん命と云々ハ
 云々ハ連同見命其子乃美志子命と云りし可
 美志子乃命の子と云ル麻志麻治命と云りし也
 又連乃ん命の子成可乃志子命と云ル又ハ乃麻志麻
 治命と云りしなりと云然レ其後ハ乃麻志麻治命
 乃乃志麻治命と云リ
 乃乃志麻治命乃乃志麻治命乃乃志麻治命乃乃志麻治命
 乃乃志麻治命乃乃志麻治命乃乃志麻治命乃乃志麻治命

事ハ乃志乃志ハ我圃の功乃志乃志乃志乃志乃志乃志
 乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志
 乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志
 乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志
 乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志
 乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志
 乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志
 乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志
 乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志乃志

母と名をいへり一ちり下一又高事地は鏡連口なる
天降きして長髓彦の妹は炊屋姫は要り
つひとみえしとて曰く死し神武天皇は
人の長髓彦と我ひつひり時子長髓彦は津と
むし一と神武天皇は路り歩りつひと神武
鏡連口命と申すつひと昔妹は炊屋姫とありて
はかゆつひとつひと昔と申すつひと命と申す

つひと送りしは美らさるる其は炊屋姫はつひと
長髓彦はつひと見れば媛と申すつひとつひと
つひと天降りしは鏡連口命は昔妹と申すつひと
つひと神武天皇は我ひつひとつひとつひと
つひとつひとつひとつひとつひとつひとつひと
つひとつひとつひとつひとつひとつひとつひと
つひとつひとつひとつひとつひとつひとつひと
つひとつひとつひとつひとつひとつひとつひと

其國神々と世に相統てるを見たりとも存絶は
 之と稱するも一萬事記より幼天路り
 古くは遠く日之出此となされしを存絶の跡は
 石ハハ秋風吹とトモ一子是又絶るは
 五後神を天曾と我ひしつゝ一也絶るは
 女の妹は其るを存絶暖とるるは絶るは
 一と長し古の代は是は此と妹は此と
 ありき一の而也諸書やみりしと絶と
 一推考ぬきハのほりて絶るは此と
 此より九と古神を其絶多くみえしもの
 必も一神のて別絶多くは西にわと
 一は此武其絶は同一武其絶は此
 一は一別神のて此絶して一神の事とる
 一とみしと多くありしと絶るは事



也 其神の同一なるを以て別神と稱して併せて一神の事
 とすなり 一はたして既述の如く又ハ火明命カキアカリと稱せ
 ざるを以て日光小波命ニギハヤヒノコナミの火明命の事一の事
 小波命コナミと稱せざるを以て其神の如くハありて
 別神の事併せて一神とすなり 一はたして大國主
 命オホクニヌシと稱せざるを以て其神の如くハありて
 別神の事併せて一神とすなり 一はたして大國主
 命オホクニヌシと稱せざるを以て其神の如くハありて
 別神の事併せて一神とすなり

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

(The reverse side of the page is mostly blank with some faint, illegible markings and a small red mark near the center.)

